

< 諮問事項(2) >

上記以外の地区における小中学校通学区域に関する課題への対応について

1 小学校通学区域の弾力化及び見直しの検討が必要な地域

(1) 横田小学校区 羽広地区の一部 (JR 北陸本線以南)

現状

- ・ この地域は、自治会が横田校下連合自治会に所属し、校区も横田小学校区となっているが、周囲が木津小学校区であり、飛び地の状態である。
- ・ 指定校の横田小学校に通学する場合、JR 北陸本線を横切ることや、通学距離が 1 km 以上であるのに対し、隣接の木津小学校までの距離が 0.5 km 未満であることから、現在、この地域の児童は、個別に指定学校変更願を提出した上で木津小学校に通学している。
- ・ この地域では、次年度以降入学する児童についても、地元自治会から木津小学校に通学させたいとの要望が出されている。

課題

- ・ 横田小学校区の飛び地状態を解消し、木津小学校区とする必要がある。

(2) 東五位小学校区 中保地区

現状

- ・ 千鳥丘小学校に接するこの地域は東五位小学校区であるが、約 10 年前より宅地造成が急激に進められ、現在、中保地区に住む児童の半数以上が、個別に指定学校変更願を提出した上で千鳥丘小学校に通学している。
- ・ この地域から指定校の東五位小学校までは、JR 北陸本線及び国道 8 号線を渡らなければならない、通学距離も隣接の千鳥丘小学校の方が近い。

課題

- ・ この地域の地理的状況から見て、通学区域の弾力化を検討する必要がある。

2 その他、課題がある地域

(1) 戸出西部小学校区(国道156号線以東の地域)

- ・ 昭和50年代に、片側2車線の国道156号線が戸出西部小学校区を分断する形で新設された。同国道の交通量は年々増加している。
- ・ 国道156号線以東の戸出西部小学校区の児童は、この道路を横断して通学しており、安全上の問題がある。

(2) 福岡小学校区 赤丸地区

- ・ 赤丸地区は、福岡小学校までの通学距離が近い所で約1.7km、遠い所で約4kmあり、児童は公営バスで通学している。
- ・ 赤丸地区は石堤小学校区に隣接しており、石堤小学校まで最も遠いところでも1.5km以内である。
- ・ 現在、赤丸地区の小学校入学前の幼児の一部が石堤保育園に通園し、数名の児童が石堤小学校に通学している。